平成20年度　第8回渡子小学校校内研修　（道徳教育）

◆　日　時　　平成20年10月8日（水）13：40～16：45
◆　会　場　　渡子小学校3・4年生教室
◆　参加者　　渡子小学校教職員

1　授業公開

主題名　　明るい心で　　1－（5）正直誠実・明朗
資料名　　『やくそくの本』　（　出典：　東京書籍　）
学習者　　第3学年　　男子6名　女子2名　計6名
　　第4学年　　男子1名　女子0名　計1名　　（合計　7名）

◆　授業について
○　導　入・・・・・迷って，どうしようか悩んだ経験を発表し，資料への導入とする。
○　資料提示・・場面絵と短冊を掲示しながら，状況を把握しやすくする。
○　展開前段・・①守は，どんな気持ちで借りた本をビニール袋に入れたか考える。
　　②おばあちゃんと出かける予定を聞いた守は，どういう気持ちになったか考える。
　　③迷った後，守はどうしたか，それはなぜか考える。（中心発問）
○　展開後段・・迷ったけど，ごまかさず約束を守ったり，まじめに行動した時のことについて発表する。
○　終末・・・・・・教師の話を聞く。

◆　協議会
講師　　呉市教育委員会　指導主事　神笠雅司先生

協議の柱――伝え合う力・かかわる力を活用した
　　；道徳の時間のあり方について

○　子どもの発言を要約して板書していたことは，よかった。
次は，子どもの発言をどう取り上げて，クローズアップするかである。ネームプレートを置く位置が予想外であった。
中心部に集まったので，反対意見でかかわりにくい状態であった。自分の思いを持つことは，伝え合うことの基盤なので，まず中心部の人の考えを言わせることが必要なのではないか。意見が変わっても，位置

を変えないのは，価値でではなく，学級の人間関係などが表れているのではないか。
価値のメジャーのところでは、しっかり時間をかけて意見を出させようとしていた。いくら考えても，どちらかに流れてしまう時――教師が反対意見を出し，ゆさぶってもいい。
「おばあちゃんと行けば楽しいよ・・・」など。
子ども達の「約束だから行く。」の意見に対して，それだけで良しとせず，真理子さんが待っているから・・・と，相手がいることに目を向けさせた理由づけになるようにすることも必要。

○ 事前に課題としていたことに対して，教師の配慮や支援が実った様子が見られた。

○ 一人一人の意見を深めようとして，足りないところを，切り返していた。その子の思いを引き出させるための努力をしていた。

○中心発問について

中心発問で，教師は「守君はどうすると思いますか？」とたずね，ワークシートには，「守君はどうしたでしょう？」とたずねていた。「迷っている守君は，どんな思いでしょう。」・・と書かして，聞いてみる。

○ 発問構成を考える

中心発問――何を考えさせるのか。
基本発問――そのために必要なもの。

二つの極を考えさせるのが，基本発問。（両極をたずねる。）

・ 真理子さんとの約束だから本を返しに行く。
・ 「買い物に行くぞ」の言葉に，本のことを忘れている。

どちらにもどっぷりとひたらせることが必要。
発問の一つ一つの意図を錬った方がいい。

○ 後段では，「まじめに行動した時，約束を守った時，などよかったこと」をたずねていた。反対に，できなかった経験も出させてもいい。（懺悔にはならないように。）